

陸奥湾マダラの年齢別漁獲尾数からわかること

(地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所

陸奥湾ではこの冬もマダラ漁が好調で、漁獲量は平成27年12月末時点で268トンと、好調だった前冬を更に上回るペースで推移しています。

水産総合研究所で、漁獲されたマダラ漁獲物の年齢査定を実施した結果、前冬の主体は4歳魚(H23生まれ)、5歳魚(H22生まれ)、6歳魚(H21生まれ)でした(図)。北海道大学高津教授の調査によると、H21年～H23年に陸奥湾で生まれたマダラ稚魚の量は非常に多かったという結果が得られており(図)、これらの稚魚が順調に成長した結果好漁につながったものと思われます。

この冬、陸奥湾で漁獲されているマダラはH22年(6歳魚)、H23年(5歳魚)生まれが主体と推測されます。

しかし、H24年～H27年は生まれた稚魚の量が少ないため、来期以降の漁獲が振るわないのでは、と心配されます。

今後、水産総合研究所では陸奥湾に來遊するマダラの年齢別の漁獲尾数データを基に、資源量を求めて親子関係を検討し、陸奥湾マダラの來遊予測に挑戦していく予定です。

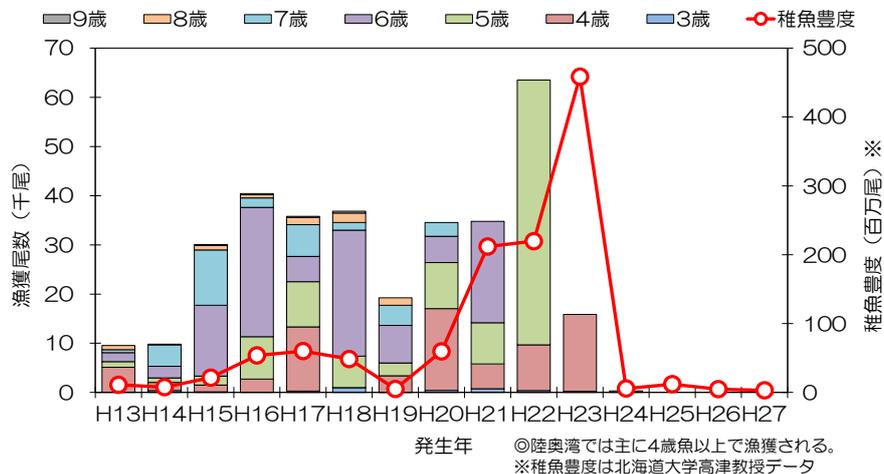


図 陸奥湾におけるマダラ年齢別漁獲尾数と稚魚豊度
(前者は水産総合研究所調べ、後者は北海道大学高津教授調査データ引用)